第 2016-39 号

恵みと真理のニュース

2016 年 9 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私の罪を赦して魂を救ってくださる主を愛します
愛と恵みで家族といつも共にいてくださる主を賛美します

私は神様を信じない不信家庭の中で２男３女の中で二番目で生まれ育ちました。子供の頃ソウルで暮らしながら学校に通う時には信仰がない友達もクリスマスのような行事になると教会に行きますが、私は一回も教会に行った事がありません。
神様を知らなくて教会に一回も行った事がなくて大人になって結婚の時期になって、ひどく保守的な家庭で嫁に行きました。一方、姉はキリスト教の信仰を持っている家庭に嫁に行きました。
　篤実なクリスチャンである姉の旦那は私と旦那がイエス様を信じないことをかわいそうと思って私の家に来て伝道して祈りをしました。このことを旦那は私より嫌がりました。 旦那は嫌な顔を隠さなくて私達のため祝福祈りをする時にも冷淡に断りました。そうするうちに長男を産みました。ところが息子の体重が少なくて未熟児で生まれソウル大学病院のインキュベーターで一か月がんを過ごしました。そして旦那の腰ヘルシアで３年間長い時間を横になっていました。私の心配しました。 それでお寺にも行って巫女を呼んで祭祀もしてみました。しかし、全然治らなくて他の宗教も信じてみたり様々な偶像崇拝をしながら暮らしました。しかし、苦難は続いて次男も生まれてから病院で入院しました。
今まで様々な偶像崇拝しても全ての疾病で疲れて心が楽な時がないと気が付きました。"こうしてはいけない。これからは教会に行こう。イエス様を信じる。"
最後に決断をして私の足で教会に行きました。そして涙を泣きながら悔い改めて主を受け入れました。ありがたいのは旦那も私に従って共に信仰生活をはじめました。真の驚きな事が起きました。私の夫婦は決信して教会に通い始めた後、神様に祈り礼拝すると嘘のように子供たちの病気が治って健康になりました。幼稚部の頃からはじめ今まで私を心配させたことが一回もないです。ところが、ある日、息子が中学校の二年生になって、次男が小学校の６年生になった時に私たちが経営していた会社が不渡りをしました。高い家と家具と 装飾品はすべて他人に譲渡されて残った雑多な物はどこ持っておくところがなくて、知り合いの家の庭と姉の家に移して任せておきました。そして、住むところがなくて私の家族は地下の倉庫で住みました。その状況である日、長男が"お母さん、神様が家族みなバラバラ離れなくて過ごすように導いてくださるから神様に感謝すます。"と慰めてくださいました。
礼拝することに与えてくださる神様の慰めと息子の話に勇気を得てまた力を出して熱心に働きました。息子に恥ずかしくない親になろうと思って神様を委ねて日々頑張って生きました。そうしたら、神様は私の家庭を最後まで守ってくださり経済状況がよくなり、息子に大きい福を与えてくださいました。二人の息子も貧しい状況にも関わらず神様を信じ委ねて熱心に勉強して自分が願っていた大学に入って自分がしたかった専攻して今大企業で研究員として勤務しています。
私の長男が今年３６歳で未婚です。それで私は今まで信仰がよい嫁がうちに入るように神様にたくさん祈りました。しかし、今年息子が気に入って私も気にいって、真実できれいな姉妹に出会って、両家の顔合わせを控えています。私の祈りに答えてくださった全能なる神様、いつも時によって助けてくださる良い神様を信じて祈りながら希望の中で待っていたら神様の摂理で恵みを与えてくださいます。
私が神様に選ばれ魂が救われたことも限りなく感謝することですが、去年神様は私に勧士の職分を与えてくださり、旦那も長老の職分を与えてくださいました。本当に感謝します。もっと主を仕え教会と生徒を仕える負担もありますが神様が職任をくださるときには担える能力もくださるのを知るので神様を信頼して頑張って奉仕しています。頑張って最善を尽くして忠誠するように努力しています。
人の体より魂がもっと貴重であることと魂が救われたその意味と幸せを知らない人々、イエス様を信じ変わらない愛する者に与えてくださる恵みを知らない人々を主に導く事にもっと熱心にします。私の家族の救ってくださった神様の恵みと愛にいつも感謝し神様の喜びと栄光のため生きます。
"わたしの魂よ、主をたたえよ。主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。 主はお前の罪をことごとく赦し／病をすべて癒し、 命を墓から贖い出してくださる。慈しみと憐れみの冠を授け 長らえる限り良いものに満ち足らせ／鷲のような若さを新たにしてくださる。"（詩編１０３：２～５）ハレルヤ！

［信仰コラム］

私には常に望みがあります

"ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも辯明のできる用意をしていなさい。"（ペトロによる手紙一 3:15）

聖書には望みと関連して全ての人を"望みのない人"と"望みに関する理由がある人"と分別しました。神様によって私達の中にある望みを二方面に分けて調べてみましょう。
第一は、神様が予言なさって約束なさったお言葉に基づく望みです。
アブラハムの例を挙げてみます。アブラハムは 75 歳になるまで子供がなく神様が言われたお言葉に根拠して繁盛した子孫に対する望みを持つようになりました。しかし、彼が 85 歳になっても子供ができないのでアブラハムは約束が遅く叶えられることにより、その約束の成就方法について誤解しました。なので、妻であるサラの忠告に従い女婢ハガルを通じてイシマエルを産み、それにより家庭に紛乱が起きて困惑になる苦痛を経験しました。
アブラハムが 99 歳になったある日、神様がアブラハムとサラに"わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。わたしはあなたと契約を結び、／大いにあなたの子孫を増すであろう"と言われました。そして、彼らの名前'アブラム'と'サライ'を'多くの群れの父、列国の父'という意味の'アブラハム'と'多くの群れの女主人、列国の母'という意味の'サラ'に変えて呼ぶように指示なさいました。アブラハムは神様の約束に基づいて無いものを有るもののように呼ばせる神様の思いを悟って名前を変えて呼びました。そしてアブラハムが 100 歳の時にとうとう自分の妻であるサラを通じてイサクを産みました。イサクがエサウとヤコブを産み、ヤコブは 12 人の息子を産んで 12 人の息子を通じてイスラエル民族が形成されました。
持続的に望みを抱いて忍耐するためには二つの努力が必要です。神様が口約束なさったお言葉を重ねて聞くべきであり、神様が約束なさったお言葉に従って口で認めるべきです。それで最後まで望みを抱いて結果が叶えられるまで進むべきです。神様の予言と口約束が記録された本が聖書であります。
第二は、イエスキリストの贖いの恵みに基づいた望みです。
イエスキリストが聖書に予言された通りにこの世にお越しになり贖いの死を完遂なさい、死亡を勝ち蘇られ昇天なさい神様の右の座に座られることによってイエスキリストを信じる全ての人は望みを持つことができるようになりました。イエスキリストによって与えてくださる誠の望み、永遠な望みはとても多用で豊かであります。万事を益となるようにして下さる望み（ローマ書 8:28）、義の冠を被る望み（ローマ書 3:24、26）、とこしえの命と共に跡継ぎになる望み（ディド書 3:7）、主の称賛と賞を受けるようになる望み（黙示録 22:12）、イエス様の再臨と復活に対する望み（コリントー 15:42～44）、天国で住むようになる望み（ヨハネによる福音書 14:2,3）があります。
このような望みは私達がこの世を生きていく生活の態度に深くて大きい影響を及びます。死い対して恐れすぎて悲しまないようにしてくれます。また、時と所有した全てのことをこの世の空しい光栄と朽ちてしまうことのために潰さず、その全てのことを神様の光栄のために、主を喜ばせるために、キリストが尊くなることのために使うようにしてくれます。また、艱難を積極的で能動的に乗りきるようにしてくれます。
誰でも望みを持って生きていきます。しかし、正当な根拠のない望みは悲しみと後悔を産みます。望みの神様から離れた人間の思想、制度、努力は空しくなります。数多い偶像宗教と巫俗信仰は人々に無駄な望みを持つようにして人々が望みの神様に進むことができないようにします。聖徒達は人々が無駄な望みを捨てて誰にも常に有るべきの望みを持つように励んで福音を述べ伝えるべきです。イエスキリストは不滅の望み、生ける望みの根拠であります。全人類の望みであり私達一人、一人の望みになってくださいます。キリストの中にある望みは全て実際的な望みであります。この地に生きる間にも私達がそれを多方面で体験するが、その全ての望みを完全な現実で体験するようになる日が訪れるでしょう。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

健康と治癒のための律法

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書には人間が疾病に苦しんで苦痛されるようになった縁由に対して啓示されています。 神様は人を魂と肉体を持った存在で創造しました。創世記 2 章 7 節に記録されるのを “主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった。” しました。 主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた。また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、更に園の中央に命の木と、善悪を知る木とをはえさせられた。主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。 “さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。へびは女に言った、「園にあるどの木からも取って食べるなと、ほんとうに神が言われたのですか」。女はへびに言った、「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、 ただ園の中央にある木の実については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました」。” しました。 ところで人がサタンの誘惑を受けて善悪を知る木の実を食べました。 神様のお言葉を逆らって罪を犯した結果で人間は死ぬようになる運命に処することになりました。

聖書に “罪の賃は死亡”と言ったし、“このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいってきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである。” (ローマ人への手紙 5:12) しました。 そして人間の身は老衰するようになって死に至るようになることを避けることができなくなりました。人は年を取って行くことを宿命で分かって順応します。 それでは病むことも仕方ない宿命で分かって疾病に屈服しなければならないことですか? 聖書は何だとおっしゃっていますか? 神様は人の寿命はどの位限定しておいたが住むうちに元気に生きようと努力することは奨励します。 だから人がどのようにすれば元気な生を生きて行くことができるのかに対して聖書に多いページを割いて記録させました。 今日は健康と治癒のために神様が下さった律法が現代医学でもそのまま適用されているという事実をよく見ます。
病原体の伝染と感染を予防するために神様が下さった律法の規例が旧約聖書レビ記と民数記にこんなに記録されています。 レビ記 15 章 13 節に記録されるのを “流出ある者の流出がやんで清くなるならば、清めのために七日を数え、その衣服を洗い、流れ水に身をすすがなければならない。そうして清くなるであろう。” しました。 民数記に記録されるのを “ついでその雌牛を自分の目の前で焼かせ、その皮と肉と血とは、その汚物と共に焼かなければならない。そして祭司は香柏の木と、ヒソプと、緋の糸とを取って雌牛の燃えているなかに投げ入れなければならない。そして祭司は衣服を洗い、水に身をすすいで後、宿営に、はいることができる。ただし祭司は夕まで汚れる。またその雌牛を焼いた者も水で衣服を洗い、水に身をすすがなければならない。彼も夕まで汚れる。”(民 19:5～8)と言いました。
この地球上に暮している生物の中には人の肉眼と見えるものより見えない極度に小さなものなどがずっと多いのにこれを微生物と呼びます。微生物にはバクテリア、アメ_バ、かび、ウイルスがあります。 人が裸眼で区別することができる大きさの限界は 0.1 ミリメートルです。これより小さなことは光学顕微鏡を利用すると見られるしそれよりもっと小さなことは電子顕微鏡を利用すると見られます。 バクテリアは光学顕微鏡で見られるしウイルスは電子顕微鏡で見られます。 ところで 19 世紀中葉に至るまでは光学顕微鏡も電子顕微鏡もなかったのでこのような病菌に対する知識がなかったです。これにより病気を治療する時さまざまな問題が現われました。 その中の一つが手術後に発生する敗血症で多くの患者が生命を失うのでした。この問題に対して医者さんたちが手を洗いだけでも死亡率を低めるということを主張した人々がいました。 しかし他の大部分の医者さんたちの偏見がこれらの主張を無視してしまいました。 このような偏見によって外科手術後に死亡率がとても高かったです。 しかし倍率の高い顕微鏡が製作されながら病菌の存在と性質が分かったから 20 世紀に入って病菌の除去のために手を洗って外科手術をするようになりながら手術後死亡率が急激に減りました。
水で身を洗う事の大切さは旧約聖書レビ記 15 章や民数記 19 章にもう記録されています。人間は 20 世紀に来てからこそかろうじて聖書お言葉に従うようになりました。 人間は多くの歳月を過ごして多くの犠牲を支払った後に初めて神様がモセに感動されて下さった規例を学んだのです。 神様は死骸や感染された患者を触った後には必ず手を洗いなさいという一番安全な方法をモセに詳らかに指示しました。 医者さんたちがもし聖書どおり手を洗って服を着替える方法に従ったらそれ程の高い死亡率は現われなかったはずです。 人々が衛生学的に水で洗う行為の大切さをまともに分かるようになったことはわずか 150 年もならないです。 ところで聖書はこれより 3,300 年も先立ってモセを通じて律法で言い付けました。 レビ記 15 章 13 節は清潔のために洗うのが “流出ある者の流出がやんで清くなるならば、清めのために七日を数え、その衣服を洗い、流れ水に身をすすがなければならない。そうして清くなるであろう。” しました。 今日の外科医者は手術の前に手を洗う時たらいに水を受けて洗わないです。 流れる水で長期間洗います。 もしたらいに水を受けて洗えば水が汚染して細菌が手にまた付くのためです。

モセがイスラエル民をエジプトから導き出した時に神様は彼の選んだ民のための非常に珍しい約束をモセを通じてくださいました。
“「あなたが、もしあなたの神、主の声に良く聞き従い、その目に正しいと見られることを行い、その戒めに耳を傾け、すべての定めを守るならば、わたしは、かつてエジプトびとに下した病を一つもあなたに下さないであろう。わたしは主であって、あなたをいやすものである」”(出 15:26)とおっしゃいました。 神様はモセに今日私たちが持っている聖書の一部になる多くの戒めをくださいました。 伝染病の予防の歴史で神様が下さったこのさまざまな法規の影響をよく見ましょう。
ヨーロッパで去る数百年の間ハンセン病気で死んだ人は数百万人に達しました。 ハンセン病気は 6, 7 世紀ヨーロッパに広く広がり始めたし、特に貧民の間に蔓延されて 13, 14 世紀にはすさまじい威勢をふるいながらその絶頂に至りました。 ハンセン病気に対して当時の医者さんたちは暑い食べ物と胡椒とニンニクと病んだ豚肉を食べるからこの病気にかかると教えるとか日と地球と月の良くない位置のため生ずると言うほどであったし治療が不可能でした。その頃ヨーロッパをもっと暗くしたまた一つの疾病はペストです。 14 世紀にペストで六百万人が死亡しました。 当時ヨーロッパ人口のほとんど 3 分の 1 に達する数字です。 医者さんたちはなすすべがなかったので指導的な役目を教会が担当しました。 教会は旧約聖書に具体化された感染概念をその指導の原理でしました。 教会はハンセン病気に対して聖書レビ記の指示にそのまましたがって患者を隔離させました。 この処方はレビ記 13 章 46 節に “その患部が身にある日の間は汚れた者としなければならない。その人は汚れた者であるから、離れて住まなければならない。すなわち、そのすまいは宿営の外でなければならない。”と言うお言葉に根拠しました。 レビ記 13 章のハンセン病気に対する律法は衛生法の最初の典型で見なされることができます。 ヨーロッパの多くの国々が聖書の検疫隔離期間の適用がハンセン病気を抑制することを見て彼らはペストに対しても同じ原理を適用しました その結果数百万名の生命が救済を受けました
今日の医学係では人間の口を通じて、正確に言わばつばを通じて病源菌が伝染する可能性が多いという事実を常識で分かっています。 このごろは常識的な次元で外科手術時マスク着用は基本で一般人も風邪をひけばマスクを着用します。 ところで今から 3,400 年前にモセがマスクの着用を聖書に記録しました。 レビ記 13 章 45 節に “患部のあるらい病人は、その衣服を裂き、その頭を現し、その口ひげをおおって『汚れた者、汚れた者』と呼ばわらなければならない。”と言いました。 また “汚物、排泄物は人の居住する所から離れた所の地に埋めなさい”と言いました。 “汚染したことは水で洗うとか火で焼きなさい”と記録されました。ある種類の病者は隔離するようにしました。
神様がこんな律法をくださって自分の民の健康の面倒を見ました。 このような律法は今から 3,400 年の前に記録されたのです。 当時に人々は伝染性を持ったバクテリアやウイルスのような病原体の存在を想像もすることができない時代に暮しました。 顕微鏡の発明と細菌学の発展など医学の進歩によって聖書のこのような律法がただ宗教的な戒律ではなく神様がくださった疾病の予防と治癒の方策という事実が分かるようになりました。

“「あなたが、もしあなたの神、主の声に良く聞き従い、その目に正しいと見られることを行い、その戒めに耳を傾け、すべての定めを守るならば、わたしは、かつてエジプトびとに下した病を一つもあなたに下さないであろう。わたしは主であって、あなたをいやすものである」” (出 15:26). 神様のお言葉は人々の健康と治癒の慈しんでくださった恵まれた約束でまた命令です。 聖徒の皆さんは神様のお言葉を信じて従順することで いつも健康を享受するように願いします。